

事業所名 Kidsプラス(児童発達支援)

支援プログラム

作成日 2024年 8月 5日

更新日 2026年 3月 7日

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| 法人(事業所)理念 | 運動あそびを通して子どもたちの「発達・成長」をサポートします。 子どもたち一人ひとりの「自立」に向けた支援を行います。 心身の健康と笑顔を引き出し「安心」できる居場所を目指します。 | | |
| 支援方針 | 発達の特性のある子どもたちが自信を持ち、ひとつでも多くのことができるようになることを目標にしています。運動療育を通じ、子ども一人ひとりの個別の目標達成に向けて「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの領域から総合的にアプローチし、支援します。 | | |
| 営業時間 | 9時 0分 から 18時 0分 まで | 送迎実施の有無 | あり なし |
| 支援内容 | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 運動遊びを通して、日中の十分な活動量をしっかりと確保することで、夜間の良質な睡眠や食欲の増進に繋げ、心身の土台となる健康的な生活リズムの安定を図ります。また、事業所に到着してからの登所時の検温や顔色の観察を行い、心身の健康状態を把握し、身の整理整頓や排泄、手洗い等の定着を図れるよう、子ども1人ひとりの発達段階やその日の体調、ペースに合わせて丁寧に行います。 | |
| | 運動・感覚 | ハイハイ、歩く、走る、跳ぶといった人間にとって基礎となる粗大運動をプログラムの中心に据えます。さらに、トランポリンやバランスストーン、平均台等の様々な遊具を用いて前庭覚や固有受容覚を効果的に刺激し、リトミックでは、身体の動きを音楽と連動させることで、リズム感、表現力、集中力等をサポートしていきます。指先の細やかな動きをスムーズにする創作活動(折り紙、洗濯ばさみや豆掴み、ハサミのり、シール貼り等)を通して、手指の巧緻性(器用さ)を高められるように、楽しみながら個々の発達段階に応じた支援を提供します。 | |
| | 認知・行動 | 体を動かすだけでなく、指定された色のフープに入る、音楽のストップに合わせてピタッと止まるといった、遊びを通しての認知機能(情報の整理、記憶、判断、ルール等)と、行動(運動)を組み合わせた適切な活動を促します。五感を通して得た情報をもとに、行動に影響を与えるルールを工夫したり、難易度を変えたりすることで効果を高めていきます。 | |
| | 言語コミュニケーション | 発語の少ない子どもに対して、表情、視線、ジェスチャー、声のトーン等の非言語的なコミュニケーション(サイン)を指導員が積極的に受け止め、一対一の丁寧なやり取りから、自分の気持ちが相手に伝わる喜びを経験させます。言葉の発達とともに、表情や気持ちを読み取る対人スキルの土台を作り、言葉のやりとり遊びから学びへと成長を促し、話す意欲を引き出していきます。 | |
| | 人間関係社会性 | 施設という新しい環境において、担当指導員との間に愛着形成をしっかりと築き、子どもにとっての安心できる場所を作ります。その安心感を土台として、場面に応じた友達との挨拶を覚えることで社会生活のルールを習得し、同じ空間でそれぞれ遊ぶ(平行遊び)ことから少しずつ遊具の順番待ちをする、手をつないで一緒に輪になる、おもちゃを貸し借りするなど、無理のないステップで小集団での活動へ参加し、他者への興味を広げられるよう促します。 | |
| 家族支援 | 連絡帳や送迎時の対話を通して、日々の小さな成長や出来事をこまめに共有します。家庭でできる簡単なふれあい遊びの提案や、就学前の発達に関する不安・悩みに寄り添う相談体制を整えます。連絡帳や送迎時の対話を通して、日々の成長や変化を丁寧に共有します。家庭でできる簡単なふれあい遊びの提案や、就学前の発達に関する不安・悩みに寄り添う相談体制を整えます。 | 移行支援 | 園などの集団生活、または小学校へのスムーズな移行を目指し、挨拶や着席、集団での活動の練習をプログラムに取り入れ、必要に応じて関係機関と連携し、子どもの特性に合わせた効果的な支援方法を共有します。 |
| 地域支援・地域連携 | 近隣の公園での外遊びを通じて、地域の人々との挨拶や公共の場でのルール(遊具の順番など)を自然に学びます。地域の保健センターや相談支援事業所と連携し、地域で子どもを育むネットワークに参加します。 | 職員の質の向上 | 幼児期の発達段階や特性に関する専門知識を深めるための内部研修を実施します。また、安全管理(誤飲防止やアレルギー対応、遊具の安全点検など)の研修を徹底します。 |
| 主な行事等 | 四季折々の制作活動と連動した運動遊び、保護者参加型の大型イベント等、家族で楽しみながら子どもの成長を感じられる行事を企画します。 | | |

作成日 2024年 8月 5日
更新日 2026年 3月 7日

事業所名 Kidsプラス(放課後等デイサービス)

支援プログラム

| | | | | | | | | |
|-----------|---|--|----------|---------|---|---------|----|----|
| 法人(事業所)理念 | | 運動あそびを通して子どもたちの「発達・成長」をサポートします。 子どもたち一人ひとりの「自立」に向けた支援を行います。 心身の健康と笑顔を引き出し「安心」できる居場所を目指します。 | | | | | | |
| 支援方針 | | 発達の特徴のある子どもたちが自信を持ち、ひとつでも多くを学ぶことができるようになることを目標にしています。運動療育を通じ、こども一人ひとりの個別の目標達成に向けて「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの領域から総合的にアプローチし、支援します。 | | | | | | |
| 営業時間 | | 9時 | 0分 から | 18時 | 0分 まで | 送迎実施の有無 | あり | なし |
| 支援内容 | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 学校活動後の疲労度や体調に配慮し、一人ひとりのペースに合わせた運動量で基礎体力と持久力を養います。小学生には、自分の持ち物の管理、水分補給のタイミング、運動後の汗の始末や着替えなど、生活習慣の自立を促します。中学生に対しては、将来の就労やフルタイムでの活動を見据えた体力づくりに加え、自分自身のストレスサインに気付き、運動を通して心身の疲労を発散・セルフケアできる自己管理能力の獲得を支援します。 | | | | | | |
| | 運動・感覚 | マット運動、跳び箱、多様な球技などを通じて、より複雑で協調性を要する運動プログラムを提供し、自分の身体をイメージ通りにコントロールする力(協調運動能力)を高めます。小学生は「できた!」という達成感からスポーツへの自信を深めます。将来的に地域のスポーツ施設等を余暇として活用するためのスキル獲得(生涯スポーツへの接続)を目指します。 | | | | | | |
| | 認知・行動 | チーム戦や複雑なルールのあるスポーツ遊びを通じて、瞬時の状況判断能力や、仲間と戦略を考える力を養います。運動の場面で生じる勝敗へのこだわりやフラストレーションに対して、気持ちを切り替えるアンガーマネジメントの練習を重ねます。中学生においては、体格差のある小学生と一緒に活動する際の安全配慮(危険予測)を促すほか、自らの体調や運動課題に合わせて必要な運動メニューを自ら選択・決定する力の育成を図ります。 | | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | チームメイトとの作戦会議や振り返りの時間を運動プログラム内に組み込み、自分の意見や感情を適切な言葉で相手に伝える練習を行います。同時に、相手の意見を否定せずに聞き入れる受容の姿勢を育みます。(中学生のみではなく小学生においても同様に適切な敬語の使用を)指導員(大人)に対する適切な敬語の使用や、職場や社会生活を想定した「報告・連絡・相談」のスキルを運動や集団活動の中で実践的に学び、状況に応じたコミュニケーション能力(TPOの理解)を深めます。 | | | | | | |
| | 人間関係社会性 | ドッジボールやリレーなどの集団スポーツを通じて、チーム内での役割分担の理解や、目標に向けて他者と協力する姿勢を学びます。ルールを遵守することの重要性や、負けた相手を思いやるスポーツマンシップを育み、社会性の基盤を作ります。中学生には、審判を任せたり、小学生のサポート役(リーダー経験)を担ってもらったりすることで、年下の子どもたちへの思いやりを育むとともに、集団内での役割認識と自己肯定感の向上を図ります。 | | | | | | |
| 家族支援 | 学校生活や思春期特有の悩み、進路に関する相談に対して、保護者と密に連携を取りながら支援します。家庭や学校以外での「第三の居場所」として、こどもが安心できる環境を提供していることを共有します。 | | | 移行支援 | 公共交通機関を利用した課外活動など、将来の就労や社会参加を見据えたプログラムを導入します。また、学校の担任等と連携し、学校での様子や事業所での様子を共有します。 | | | |
| 地域支援・地域連携 | 地域のスポーツイベントへの参加や、近隣の公園・体育館の利用時のマナー学習を通じて、地域社会との接点を持ちます。必要に応じて、地域のスポーツクラブ等への移行も視野に入れたサポートを行います。 | | | 職員の質の向上 | 思春期の心理的発達や、より高度な運動指導技術、SST(ソーシャルスキルトレーニング)に関する研修を実施します。多様化することへのニーズに対応できるように、事例検討会を定期的に開催します。 | | | |
| 主な行事等 | 他事業所との合同スポーツ大会、長期休みを利用した野外活動など、達成感を得られる行事を企画します。 | | | | | | | |

事業所名 Cocoスマイル(児童発達支援)

支援プログラム

作成日 2024年 8月 5日

更新日 2026年 3月 7日

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| 法人(事業所)理念 | 運動あそびを通して子どもたちの「発達・成長」をサポートします。 子どもたち一人ひとりの「自立」に向けた支援を行います。 心身の健康と笑顔を引き出し「安心」できる居場所を目指します。 | | |
| 支援方針 | 発達の特性のある子どもたちが自信を持ち、ひとつでも多くのことができるようになることを目標にしています。運動療育を通じ、子ども一人ひとりの個別の目標達成に向けて「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの領域から総合的にアプローチし、支援します。 | | |
| 営業時間 | 9時 30分から 18時 30分まで | 送迎実施の有無 | あり なし |
| 支援内容 | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 運動遊びを通して、日中の十分な活動量をしっかりと確保することで、夜間の良質な睡眠や食欲の増進に繋げ、心身の土台となる健康的な生活リズムの安定を図ります。また、事業所に到着してからの登所時の検温や顔色の観察を行い、心身の健康状態を把握し、身辺の整理整頓や排泄、手洗い等の定着を図れるよう、子ども1人ひとりの発達段階やその日の体調、ペースに合わせて丁寧に行います。 | |
| | 運動・感覚 | ハイハイ、歩く、走る、跳ぶといった人間にとって基礎となる粗大運動をプログラムの中心に据えます。さらに、トランポリンやバランスストーン、平均台等の様々な遊具を用いて前庭覚や固有受容覚を効果的に刺激し、リトミックでは、身体の動きを音楽と連動させることで、リズム感、表現力、集中力等をサポートしていきます。指先の細やかな動きをスムーズにする創作活動(折り紙、洗濯ばさみや豆掴み、ハサミやのり、シール貼り等)を通して、手指の巧緻性(器用さ)を高められるように、楽しみながら個々の発達段階に応じた支援を提供します。 | |
| | 認知・行動 | 体を動かすだけでなく、指定された色のフープに入る、音楽のストップに合わせてピタッと止まるといった、遊びを通しての認知機能(情報の整理、記憶、判断、ルール等)と、行動(運動)を組み合わせた適切な活動を促します。五感を通して得た情報をもとに、行動に影響を与えるルールを工夫したり、難易度を変えたりすることで効果を高めていきます。 | |
| | 言語コミュニケーション | 発語の少ない子どもに対して、表情、視線、ジェスチャー、声のトーン等の非言語的なコミュニケーション(サイン)を指導員が積極的に受け止め、一对一の丁寧なやり取りから、自分の気持ちが相手に伝わる喜びを経験させます。言葉の発達とともに、表情や気持ちを読み取る対人スキルの土台を作り、言葉のやりとり遊びから学びへと成長を促し、話す意欲を引き出していきます。 | |
| | 人間関係社会性 | 施設という新しい環境において、担当指導員との間に愛着形成をしっかりと築き、子どもにとっての安心できる場所を作ります。その安心感を土台として、場面に応じた友達との挨拶を覚えることで社会生活のルールを習得し、同じ空間でそれぞれ遊ぶ(平行遊び)ことから少しずつ遊具の順番待ちをする、手をつないで一緒に輪になる、おもちゃを貸し借りするなど、無理のないステップで小集団での活動へ参加し、他者への興味を広げられるよう促します。 | |
| 家族支援 | 連絡帳や送迎時の対話を通して、日々の小さな成長や出来事をこまめに共有します。家庭でできる簡単なふれあい遊びの提案や、就学前の発達に関する不安・悩みに寄り添う相談体制を整えます。 連絡帳や送迎時の対話を通して、日々の成長や変化を丁寧に共有します。家庭でできる簡単なふれあい遊びの提案や、就学前の発達に関する不安・悩みに寄り添う相談体制を整えます。 | 移行支援 | 園などの集団生活、または小学校へのスムーズな移行を目指し、挨拶や着席、集団での活動の練習をプログラムに取り入れ、必要に応じて関係機関と連携し、子どもの特性に合わせた効果的な支援方法を共有します。 |
| 地域支援・地域連携 | 近隣の公園での外遊びを通じて、地域の人々との挨拶や公共の場でのルール(遊具の順番など)を自然に学びます。地域の保健センターや相談支援事業所と連携し、地域で子どもを育むネットワークに参加します。 | 職員の質の向上 | 幼児期の発達段階や特性に関する専門知識を深めるための内部研修を実施します。また、安全管理(誤飲防止やアレルギー対応、遊具の安全点検など)の研修を徹底します。 |
| 主な行事等 | 四季折々の制作活動と連動した運動遊び、保護者参加型の大型イベント等、家族で楽しみながら子どもの成長を感じられる行事を企画します。 | | |

作成日 2024年 8月 5日
更新日 2026年 3月 7日

事業所名 Cocoスマイル(放課後等デイサービス)

支援プログラム

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| 法人(事業所)理念 | 運動あそびを通して子どもたちの「発達・成長」をサポートします。 子どもたち一人ひとりの「自立」に向けた支援を行います。 心身の健康と笑顔を引き出し「安心」できる居場所を目指します。 | | |
| 支援方針 | 発達の特徴のある子どもたちが自信を持ち、ひとつでも多くを学ぶことができるようになることを目標にしています。運動療育を通じ、こども一人ひとりの個別の目標達成に向けて「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの領域から総合的にアプローチし、支援します。 | | |
| 営業時間 | 9時 30分 から 18時 30分 まで | 送迎実施の有無 | あり なし |
| 支援内容 | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 学校活動後の疲労度や体調に配慮し、一人ひとりのペースに合わせた運動量で基礎体力と持久力を養います。小学生には、自分の持ち物の管理、水分補給のタイミング、運動後の汗の始末や着替えなど、生活習慣の自立を促します。中学生に対しては、将来の就労やフルタイムでの活動を見据えた体力づくりに加え、自分自身のストレスサインに気付き、運動を通して心身の疲労を発散・セルフケアできる自己管理能力の獲得を支援します。 | |
| | 運動・感覚 | マット運動、跳び箱、多様な球技などを通じて、より複雑で協調性を要する運動プログラムを提供し、自分の身体をイメージ通りにコントロールする力(協調運動能力)を高めます。小学生は「できた!」という達成感からスポーツへの自信を深めます。将来的に地域のスポーツ施設等を余暇として活用するためのスキル獲得(生涯スポーツへの接続)を目指します。 | |
| | 認知・行動 | チーム戦や複雑なルールのあるスポーツ遊びを通じて、瞬時の状況判断能力や、仲間と戦略を考える力を養います。運動の場面で生じる勝敗へのこだわりやフラストレーションに対して、気持ちを切り替えるアンガーマネジメントの練習を重ねます。中学生においては、体格差のある小学生と一緒に活動する際の安全配慮(危険予測)を促すほか、自らの体調や運動課題に合わせて必要な運動メニューを自ら選択・決定する力の育成を図ります。 | |
| | 言語コミュニケーション | チームメイトとの作戦会議や振り返りの時間を運動プログラム内に組み込み、自分の意見や感情を適切な言葉で相手に伝える練習を行います。同時に、相手の意見を否定せずに聞き入れる受容の姿勢を育みます。(中学生のみではなく小学生においても同様に適切な敬語の使用を)指導員(大人)に対する適切な敬語の使用や、職場や社会生活を想定した「報告・連絡・相談」のスキルを運動や集団活動の中で実践的に学び、状況に応じたコミュニケーション能力(TPOの理解)を深めます。 | |
| | 人間関係社会性 | ドッジボールやリレーなどの集団スポーツを通じて、チーム内での役割分担の理解や、目標に向けて他者と協力する姿勢を学びます。ルールを遵守することの重要性や、負けた相手を思いやるスポーツマンシップを育み、社会性の基盤を作ります。中学生には、審判を任せたり、小学生のサポート役(リーダー経験)を担ってもらったりすることで、年下の子どもたちへの思いやりを育むとともに、集団内での役割認識と自己肯定感の向上を図ります。 | |
| 家族支援 | 学校生活や思春期特有の悩み、進路に関する相談に対して、保護者と密に連携を取りながら支援します。家庭や学校以外での「第三の居場所」として、こどもが安心できる環境を提供していることを共有します。 | 移行支援 | 公共交通機関を利用した課外活動など、将来の就労や社会参加を見据えたプログラムを導入します。また、学校の担任等と連携し、学校での様子や事業所での様子を共有します。 |
| 地域支援・地域連携 | 地域のスポーツイベントへの参加や、近隣の公園・体育館の利用時のマナー学習を通じて、地域社会との接点を持ちます。必要に応じて、地域のスポーツクラブ等への移行も視野に入れたサポートを行います。 | 職員の質の向上 | 思春期の心理的発達や、より高度な運動指導技術、SST(ソーシャルスキルトレーニング)に関する研修を実施します。多様化することへのニーズに対応できるように、事例検討会を定期的に開催します。 |
| 主な行事等 | 他事業所との合同スポーツ大会、長期休みを利用した野外活動など、達成感を得られる行事を企画します。 | | |